

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://jsohkink.umin.jp>

新年のご挨拶

近畿地方会会長 車谷 典男



近畿地方会の皆様方におかれましては、晴れやかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。と同時に本年が、東日本大地震の力強い復興元年となる良き一年であることを、心から祈念いたします。

■盛会だった第51回近畿産業衛生学会

地方会としての最大の学術集會であった第51回近畿産業衛生学会は、11月5日、奈良県文化会館にて、夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学教授)学会長のもと、盛会裏のうちに終了しました。一般演題は3会場に分かれて35題の多くを数え、参加者も全体で200名を超えました。特別講演・基調講演・シンポジウムの詳細は、本号でも紹介されていることと思いますが、メンタルヘルスの心を学ぶ絶好の機会となりました。職場のメンタルヘルス問題一筋に取り組まれてきた夏目学会長の見識と現場重視の姿勢が、滲み出た素晴らしい学会でした。

■近畿産業衛生学会優秀演題賞の新設

またこの日、第一回「近畿産業衛生学会優秀演題賞」の授賞式が、午後からの特別講演に先立ち行われました。地方会の一層の活性化を図る一環として、過去3回の幹事会の論議を経て定めた選考規程(全文は前号地方会ニュースに掲載)に従い、厳正なる審査の結果、筆頭発表者の平田真以子氏と藤井由希子氏に授与されました。お二人の喜びの声が本号に掲載されているかと思えます。選考委員長はその年の学会長とし、学術担当理事も加わった委員会で、抄録(事前審査)と口演発表(当日)の両者を総合評価することとしています。選考にあたっては、純粋な研究活動だけではなく、実践活動にも重きを置くことになっています。50回の歴史を数えた学会の一区切りとして新設された本賞が、地方会の多くの会員の産業保健活動の励みになり、専門職としての私たちの産業衛生活動を飛躍させる跳躍台になることを確信しています。

■楽しい「産業看護実態調査」結果

昨年は、5年ごとに実施してきている「産業看護実態調査」の年でした。従来、看護部会が独自に行っていましたが、地方会の重要事業と位置づけなおし、看護部会長も兼任されている大協理事を責任者として

昨夏に実施しました。地方会の全看護職453名に発送し、243名から回答が寄せられています。回収率は50%超と低目ですが、地方会の貴重な継続資料になることが期待されています。現在、集計中とのことであり、その結果は本年の総会あるいは近畿産業衛生学会で発表される予定です。心待ちにしたいと思います。

■地方会役員選挙方法の「簡素化」を検討中

少し話は変わりますが、地方会の代議員、理事などの役員選挙が従来の3年間隔から2年間隔になって10年近くたちます。法人の監督官庁の指導に従ったものです。しかし、2年間隔は事務局としてはあわただしい上に、経費的にもちょっとした負担になりつつあります。第2回幹事会でこの点が指摘され、現在、土手友太郎現選挙管理委員長を中心とした「選挙制度検討委員会」で、改善策の検討が進められています。順調にいけば、2月の幹事会、6月の地方会総会で承認を得て、この夏過ぎには「簡素化」した新しい方法での選挙が行われることとなります。もちろん本部選挙規定の枠内での「簡素化」です。

■今年は和歌山で開催されます

さて、本年の地方会総会は6月16日(土)に決定いたしました。同時開催される恒例の特別プログラムは広部一彦学術担当理事と学術部会が中心になって企画することになります。また、第52回近畿産業衛生学会は和歌山で開催されます。会長は和歌山県立医科大学保健看護学部教授の森岡郁晴先生で、期日は11月17日(土)に決定しています。森岡先生はすでに準備万端の状態と聞いています。第二回「近畿産業衛生学会優秀演題賞」も狙って、演題をどしどしご応募ください。なお、学会の抄録集は学会終了後にそのままPDF化し、アーカイブとして、地方会のホームページにアップすることが先日の幹事会と代議員会で了解されています。

■改めてよろしくお願い申し上げます

最後になりましたが、今年も地方会活動に積極的にご参加いただきますよう、地方会長として心よりお願い申し上げます。

第51回近畿産業衛生学会を開催して

大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科 夏目 誠



■35の「一般演題」と202名が参加

平成23年11月5日（土）、第51回近畿産業衛生学会を奈良県文化会館で開催いたしました。今回は、「明日から役に立つ産業保健」をテーマに、明日から活用できるスキルを盛り込みました。参加者は202名（会員152名、会員外50名）で、演題数が35題と多くの発表があり、3会場で熱心な討議が行われました。

また、今回から行われた「最優秀演題賞」として、みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センターの平田真以子先生の『職域におけるメタボリックシンドローム対策－男性労働者における運動量と内臓脂肪蓄積に関する検討－』および京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野の藤井由希子先生の『炭素鎖の異なる有機フッ素カルボン酸における体内動態の相違』の2つが選ばれ、表彰されました。

特別講演として、『うつ状態を訴える多様な職員への対応』を「うつ病」の第一人者である名古屋大学大学院教授の尾崎紀夫先生が講演され、わかりやすく、かつ中身が濃いものであったため多くの人に印象深く残ったことと思います。

■シンポジウムが多いに盛り上がり白熱の討議が…

シンポジウムに先立ち、基調講演として、学会長である夏目が『事例から知る「ワーキングウーマン」の

メンタルヘルス』と題して、身近な7事例を中心に、ポイントと話題を提供しました。

シンポジウムのテーマは、『ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応』で、名司会のもとで、4人の演者がいずれも女性であり、最新の話やデータ、オリジナリティから、熱の溢れる報告が行われました。また、フロアとの間に、活発な楕応答がなされ、本学会で最高の盛り上がりを見せました。

その後に開催された懇親会は、冷たい雨が降っているにもかかわらず約30名の方が参加してくださり、トップランペッターである唐口一之さんなどによるジャズライブを満喫していただきました。

■多くの方々に感謝、感謝

地方会ですが有意義な発表とともに、さまざまな方々が職種を越えて交流が行われており、学会を成功のうちに終えることができました。

最後になりましたが、本学会開催のためにご協力いただいた準備委員の方々、ならびに学会運営を支えてくれた先生方や大学院生、そして雨にもかかわらず学会に参加してくださった皆様に厚く感謝いたします。－終わった、終わった、良かった、良かった！－ああ実感です。

優秀演題賞を受賞して

みずほフィナンシャルグループ
大阪健康開発センター
平田 真以子



この度、「わが社のメタボリックシンドローム対策－男性労働者における運動量と内臓脂肪蓄積に関する検討－」をテーマに近畿地方会優秀演題賞を頂き、ありがとうございました。腹囲（内臓脂肪）に関する検討は、約20年前から当センターの先輩方から引継がれてきたもので、日々スタッフが社員のお腹を測定し、データをコツコツ整理・分析した結果、報告できております。諸先輩方からのご指導と皆様方のお力添えと、当センタースタッフのチームワークの賜物と深く感謝いたしております。ありがとうございました。

京都大学医学研究科環境衛生学
藤井 由希子



この度は過分な賞を頂き有難うございます。本研究では工業的にも使用され、ヒト血清中からも検出される残留性有機汚染物質の有機フッ素カルボン酸のマウスを用いた体内動態試験を行なったところ、炭素鎖により排出経路が大きくことなるという結果を得ました。ご指導いただいております京都大学医学研究科小泉昭夫先生に感謝を申し上げます。今回の賞を励みとし、今後も産業衛生の基盤となりうる基礎研究を続けていきたいと思っております。

第51回近畿産業衛生学会特別講演の報告

特別講演:「うつ状態を訴える
多様な職員への対応」を拝聴して

和歌山県立医科大学
保健看護学部

森岡 郁晴



多様なうつ病の知識を活かして

昨今仕事を取り巻く環境が非常にストレスフルになってきました。職場での残業時間は制限されながらも業務量は減らず、仕事の密度は濃くなり、難易度も上がってきました。また、PCや携帯電話で24時間仕事に携わることが可能になり、職場を離れても心理的に仕事から離れられなくなりました。さらに、職場で人との関係を深めていく機会が少なくなり、人間関係の希薄化がおこっています。その結果、うつ病などの心の不調を発症し休職する者が増加しています。

近年うつ病の多様化がさらに進み、専門医でも診断や治療法に困るケースが出てきています。このような現代型のうつ病の研究が進むにつれて、従来のうつ病の常識が徐々に変わってきました。この点について、尾崎紀夫先生にわかりやすく講演していただきました。

従来、メンタルヘルスの対象者と言えば、中間管理職や管理職で会社のために熱心に働いた結果うつ病になる人が多かったのですが、最近では若い層がタイプを変えてその対象者になっています。このタイプは30歳代以下で、核家族の中で甘やかされて育ち、友達や仲間と濃密な人間関係を求めません。横のつながりが脆弱だから、困ったときに相談する相手もなく、サポート体制が抜けています。これでは、ストレス耐性能力が低くなってしまいます。

現代型うつ病は、自己中心的・他罰的であくまでも周囲が悪いと考え、会社や権威に価値を置きません。また、横との比較により自己に価値を見出すため、自分自身の認識や行動を変えることで、組織に適合しようとはしません。会社にとっても難しいケースになっています。

これからの職場のメンタルヘルスケアでは、どの世代も一人ひとりが、自らを理解して、ストレスサーに対処することが必要です。この点に関して尾崎紀夫先生は、身体の休息と違って、心の休息は難しく、寝ているだけでは休めない。寝ていても仕事が気になると、おっちゃんしていました。うつ病予防には、上手に心を休ませることが大切です。

奈良の学会の参加者ならではの知識を活かして、こんな問題にさよならしたいものです。

第51回近畿産業衛生学会基調講演の報告

事例から知る「ワーキングウーマン」
のメンタルヘルスを拝聴して

みずほフィナンシャルグループ
大阪健康開発センター

館 美加



11月5日(土曜)に奈良県文化会館で開催されました近畿産業衛生学会に参加しました。当日は午後から雨が降り出すあいにくの天気となりましたが、会場はほぼ満席で、参加者の熱意とメンタルヘルスの関心の高さが伺えました。

今回の基調講演は「事例から知るワーキングウーマンのメンタルヘルス」ということで、本学会の学会長である夏目誠先生のお話を聞かせていただきました。

内容は次のシンポジウム「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」がよりイメージを持って聞くことができるよう、女性の年代ごとに生じる可能性のあるメンタル不調について、事例を交えて説明を受けました。

まず、人生を就職・結婚・出産・昇進などの獲得・好調の昇り調子の時期と、更年期やさまざまな疾病・介護・親や配偶者の死などに直面する不調と喪失の下り調子の時期に大わけ、それぞれの時期に応じた事例を「・・・症候群」という形で紹介されました。事例は盛りだくさんでこの場で紹介することができないのが残念ですが、非常に多岐にわたる症候群があり、それぞれを先生独特のユーモアを交えながら、大変わかりやすく説明して頂き、各症候群のイメージも付きやすかったと思います。

私が入社した1980年代はバブルの全盛期で、女性は寿退職することが主流だった時代です。しかしその後の社会情勢の変化(男女雇用均等法・バブルの崩壊・リストラなど)で、急速に女性が社会進出し、結婚・出産後も働く人が増えてきました。当然産業保健の中でも働く女性の健康管理は重要度が増してきています。実際にダブルパンチ症候群、スーパーウーマン症候群、更年期うつなどの今回の講演内容にピタッとハマるケースも多くみられるようになってきました。先生からは仕事・家族・趣味の3つがバランスが取れていることがベストであるとのコメントをいただきましたが、まだまだ女性が働く上で、社会インフラ等が十分とは言えない中、同じ女性として、それぞれの世代背景も念頭におきつつ、さまざまな症候群に当てはまるケースに向かい合っていきたいと感じました。

第51回近畿産業衛生学会シンポジウムの報告

「近畿産業衛生学会
シンポジウムを拝聴して」財団法人京都工場保健会
産業保健推進部

森口 次郎



11月5日の第51回近畿産業衛生学会に参加し、シンポジウム「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」を拝聴しました。

関根友実先生は、アレルギー疾患を抱えながらアナウンサーとして勤務された経験を紹介されました。女性アナウンサーは華やかな一方、ストレスのかかる業務と推察されますが、さらに関根先生は疾病の負担も重なり、妊娠を希望する過程で「仕事か、子供か」という選択を迫られたこと、また後に現場に戻る決心をされた過程を生々しくご紹介されました。

森村美奈先生は、婦人科医の立場から月経関連症状の職場への影響とその対策などを紹介されました。月経関連症状は女性にも理解されにくく、器質疾患がない場合は医療者にさえ理解されづらく、またその症状が繰り返されることは職場への影響が大きいので、適切な医療につなぎ、個人と組織のメリットをもたらすことは産業保健職の責務と感じました。

久保とし子先生は、産業医としての経験に基づき就労女性の健康問題は、ライフステージだけでなく、各年代の社会背景を踏まえたいうでの支援が必要と述べられました。またご自身の調査で、異動後3ヶ月頃、女性に有意のストレスを認めましたが数ヶ月後に適応すること、一方、男性は継続的にストレスを感じていることから、女性の適応力の優位性が示唆されたと紹介されました。

米山貴子先生は、女性の職業生活の支援を行うために設置された「勤労女性の健康相談室」の活動を紹介されました。相談室では、保健師が電話及び面談で相談を受けられ、上司、家族などからの相談も増加していました。相談者の年齢、職種は幅広く、相談内容も人間関係、子育てや介護、女性疾患、ハラスメントなど多岐に渡り、これらのデリケートな問題は企業外専門職のほうが相談しやすい可能性もあるため、重要な取り組みと感じました。

討論において、近年、若年の就労女性は出産、育休を経て業務に復帰されることも増えており、妊娠を諦めて働き続けた世代の複雑な思いへの配慮が必要との指摘は考えさせられるもので、多くの女性産業医が所属する部署の責任者として勤務する筆者には大変有益なシンポジウムでした。

産業看護部会報告

1.今年度 第2回定例研修会 報告

日 時：平成23年12月3日(土) 13:30～16:30

会 場：エルおおさか本館6F 大会議室

形 式：パネルディスカッション

テーマ：“企業のリスクマネジメントに産業看護職の専門性をどのように発揮するか”
～過重労働対策を通して考える～

基調講演：和歌山県立医科大学 森岡 郁晴 教授

パネリスト：(株)ワールド 雑賀 佳世子 保健師

参加者：95名（学会員 73名・非学会員 22名）

2.日本産業衛生学会認定産業看護職
継続教育基礎コースの実施報告
(前年度からの継続事業)

開催日時：平成22年9/25、10/23、11/27、12/11、

平成23年2/5、3/26、4/23、5/14、6/25、

7/16(土) 計10回

午前10:30～午後4:45

参加人員：出席者47名（うち看護師登録合格者 20名）

会 場：エルおおさか（府立労働センター）

本館会議室

共 催：大阪、京都、滋賀、兵庫、和歌山、奈良産業保健推進センター、労災病院勤労者予防医療センター

基礎コース実施にあたり、近畿産業衛生学会の先生方には講師を快くお引き受けいただき、厚く御礼申し上げます。



第21回産業医・産業看護全国協議会に参加して

三菱電機(株)
冷熱システム
製作所(和歌山市)
健康増進センター 看護師
北村 桂子



三菱樹脂株式会社 長浜工場
健康管理G 産業医
伊藤 裕康



全国協議会が2011年11月23日～25日の3日間福岡市で開催され、私は初めて参加いたしました。そこで、「特定保健指導による行動変容と測定結果の関連性について」ポスターによる発表の機会を得ました。ポスター発表も初めての経験でどのように構成しまとめるといいのか、限られた中で表現することの難しさや内容を上手く伝える難しさ等、すべてが要領を得ず手探りで準備には時間がかかりました。

しかし、会場では諸先生方から直接ご指導を頂戴し、同じ保健指導に携わっている方々とは貴重なご意見の交換ができたことに感謝しております。

また、今回「呼吸用保護具フィットテストインストラクター」の研修を受けることもできました。実習ではN95レスピレーターの正しい使用法とフィットテストを行いました。N95レスピレーターが素晴らしい性能を持っていても、正しく使用できなければ役には立たないので、個人にフィットしたものを探し、それをいかに漏れないように装着させるかを認識すべきということを学びました。また私は匂わなければ漏れないかと思っていましたが、サッカリンを使った「定性的フィットテスト」を体験すると匂いとは無関係でわずかの隙間も特性をゼロにするという驚きの体験をしました。今後は、職場の安全活動にこの体験を生かし、従業員に役立つ教育を考えたいと思いました。

さて会場のシンポジウムでは、私たち産業看護職を取り巻く環境が日々大きく変化を遂げており、産業看護職の法制化の動きや産業看護の質の向上を意識した取り組みが進められていると言われておりました。名実ともに産業看護職がプロフェッショナルの集団と認められるためには、限られた世界に精通しているスペシャリストより、ジェネラリストとしての視点で動ける産業看護職像が、社会に求められているのではないかと話に共感しました。それらのことから、産業保健活動には限界がないのだなと実感しました。これからはより良い活動ができるように社内外を問わず積極的に知識や体験を得ることで産業衛生学会活動にも積極的に参加し、広い視野を持って邁進していきたいと思っております。

第21回産業医・産業看護全国協議会が、「社会基盤としての産業保健活動」をメインテーマに平成23年11月23日(水)～26日(土)に福岡市内のアクロス福岡で開催されました。

九州の玄関とも言われる新JR博多駅ビルのイルミネーションは壮大であり、加えてソフトバンクホークス8年ぶりの日本シリーズ優勝を決めた直後ということもあり、福岡市も本大会も大変盛り上がりしていました。

本大会の特徴の一つ、シンポジウム「人と人とのつながり(ソーシャル・キャピタル)を考える」は、藤代一也先生(九州電力)と山下珠美先生(西日本シティ銀行)が司会、野鳥研究者の森口紗千子先生(国立環境研究所)、競技かるたの西郷直樹永世名人(全日本かるた協会)、中洲祭り運営委員の末吉美恵子営業部長(福一不動産)をシンポジストとして、超満員の中、開催されました。ソーシャル・キャピタルについて、学会誌記載の「①一般的に人(他人)はどの程度信頼できると思われているか、②各種の人的ネットワークがどれだけ発達しているか、③参加意識がどの程度か」でおおよそイメージした上でシンポジウムに参加することで、企業の社会的責任(CSR)といわゆる「病氣」の管理だけでなく産業保健の幅広さと奥深さを再認識する機会となりました。そして、「損得なしに好きで活動することによる人のつながり」を聞くと、テニスなどによる自分自身の人とのつながりと健康との関連を改めて見直すきっかけにもなりました。

また、個人的には、昨年8月に受験した日本産業衛生学会専門医資格認定試験に合格することができたため、第19回専門医認定証授与式に参加いたしました。認定証も一つの財産となりましたが、専門医資格を得るまでの過程で幅広く勉強、研究、修練できたことはこれから産業医活動を続けるうえで非常に大きな財産となったと感じています。その他、本学会では、平成24年4月から専門医制度が移行し、まず専攻医試験を受けることから始まること、そして研修指導は研修施設認定において行うことなどの説明もありました。

最後に、本大会を運営されたスタッフの方々、専門医試験を運営されたスタッフの方々、そして修練する上で御世話になった先生方に深く御礼申し上げます。

受賞おめでとうございます。

厚生労働大臣功績賞

大阪ガス株式会社 人事部
健康開発センター 統括産業医
岡田 邦夫先生

緑十字賞を受賞して

大阪医科大学
河野 公一



昨年10月12日に東京国際フォーラムで開催された、中央労働災害防止協会主催の第70回（平成23年度）全国産業安全衛生大会にて緑十字賞を受賞しました。今回の大会はわが国で産業安全運動が始まって100年を迎える記念大会でもあり、厚生労働大臣をはじめ多くの来賓・参加者の中での受賞でしたので大変緊張し、また感慨もひとしおでした。

今回の受賞は本学会の諸先生をはじめ、これまでご指導・ご助力をいただいた関係各位の後ろ盾があったればこそと大変恐縮し、また感謝しています。

大学卒業後今日まで労働衛生・予防医学を仕事の座標軸の中心に置いて歩んできましたが、私が生まれた年（昭和22年）に労働基準法が産声を上げ、大学卒業の年（昭和47年）に労働安全衛生法が施行されたことをかえりみますと、何か運命的なものすら感じています。

わが国では、高齢化社会の急速な進展になどにより、職域でも50歳以上の中・高齢労働者の雇用割合が30%を超えています。これに伴い年齢別の労働災害発生率は30歳代に比べ60歳代では2倍近くになり、生じる傷害の重症度が高くなっていることも事実です。私が専門にしています化学物質についても、近年作業環境や作業方法の改善により労働者が高濃度に暴露されるような環境の下で働くことは少なくなった半面、比較的低濃度ではあるが長期間にわたって、しかも複数の化学物質に晒されていることへの健康影響が、労働者の中・高齢化と相まって重要な課題になっています。

これからは、これまで福井労働局や大阪労働局の労働衛生指導医や労災医員として20年近く勉強させていただいた経験を後輩の諸兄に少しでもお伝えし、お役にたてればと思っています。

今後とも本学会会員諸先生のご健康を祈念しますとともに、ご指導・ご助力をよろしくお願い申し上げます。

緑十字賞を受賞して

元兵庫労働基準連合会衛生部会長
現川崎重工業株式会社
兵庫工場健康推進センター 専属産業医
藤本 直樹



このたび、中央労働災害防止協会（以下、「中災防」という。）緑十字賞（労働衛生部門）を受賞いたしました。平成10年6月から兵庫労働基準連合会労働部会長を13年間勤めた実績を評価されたものでした。この5月末に辞するに当たり、連合会の推薦に与り、栄えある受賞に到りました。さる10月12日「中災防」が主催する全国産業安全衛生大会（東京大会）に参加し、多くのかたがたとともに表彰を受けてまいりました。身に余る光栄と存じております。ここにご報告申し上げます。さて、私が川崎重工業(株)神戸本社産業医として就職して間もない時期に、連合会部会長に推挙されて以来10数年間、今日に至るまで勤め上げられたのは、皆様からのご支援・ご協力の賜物と感謝しております。振り返りますと、在任期間中は兵庫安全衛生大会、ゼロ災大会や快適職場・健康づくり推進大会を開催するに当たり、アスベスト被ばくと健康診断、新型インフルエンザの流行・予防対策、分煙対策、およびメタボリック・シンドローム対策等が話題になりましたが、最近ではメンタルヘルス問題が主として取り挙げられて来ました。連合会の役職からは退職しましたが、これからも産業医として、皆様に恩返しさせてもらうために、自他ともに『健康第一』をモットーにして、今後も日々の研鑽に努めて、予防医学・産業保健活動を続けてゆくつもりです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

シリーズ

自己紹介

私たちの職場 (24)

(財)結核予防会大阪府支部大阪総合健診センター

副支部長兼大阪総合健診センター長 増田 國次

(財)結核予防会大阪府支部は東京に本部創立一年後の昭和15年に設立されました。結核が猛威をふるっていた頃で、官民挙げて結核との闘いが行われていました。大阪では世界に先駆けて、この年にエックス線健診車を製作し、学童・児童を始めとする健診に力を発揮しました。

現在の総裁は秋篠宮妃紀子殿下で、結核にも関心が高く、毎年行われる「結核予防全国大会」にご臨席され、全国の結核予防会の職員を始め結核予防に携わる方々を励まされています。平成23年の福島大会が東日本大震災で中止になり、今回は平成24年2月に大阪で開催されます。

結核は、衛生状態の改善や健診方法の進歩、治療薬の効果などにより、徐々に減少してまいりました。高度経済成長期を経て、国民の栄養状態がよくなり、疾病構造にも変化が表れてきました。

結核中心の時代から、生活習慣病予防のために、さらには各種のがんをターゲットに、それらを網羅した人間ドックにと、健診の内容が充実してまいりました。我々の施設におきましても、必要な健診器具・機械の新設に力を注ぎ、受検者の皆様や企業・事業所の産業医・産業看護職・衛生管理者等のご希望・ご期待に応えるよう努力してまいりました。

平成21年2月に新館として現在地に建替え工事が完了し、ハード面のみではなく、ソフト面でも新しい体制で、健診業務に取り組んでいます。まず、健診フロアを分け、受検者の皆様が、交錯しないように、フロアの移動のないようにいたしました。すなわち、1階に保険診療のスペースと健診の受け付けを、2階に定期健康診断を、3階に生活習慣病予防健診を、4階には人間ドック健診といたしました。それぞれのフロアに必要な健診器具—胸部エックス線撮影装置 (CR)・胃部エックス線撮影装置 (DR)・腹部超音波装置・乳腺超音波装置・マンモグラフィ・心電図・眼底・聴力検査・スパイロメーター・心臓超音波装置・内視鏡検査装置 (上部・下部)・ヘリカルCT装置などを設置いたしました。当然ですが、診察室・測定室・採血室・採尿室・保健指導室等も備え、また待合のスペースに出来るだけ余裕を持たせるようにいたしました。

一方、従来から行っています事業所や自治体への出張健診のための健診車は34台保有しており、胸部・胃部のほか循環器・超音波・骨粗鬆症・子宮がん等に対応できる健診車が市中を走っています。

外部審査機関による評価認定として、公益社団法人日本人間ドック学会の「人間ドック健診施設機能評価」、

特定非営利活動法人マンモグラフィ検診精度中央委員会の「マンモグラフィ検診施設画像評価認定」、特定非営利活動法人日本臨床細胞学会の「日本臨床細胞学会認定」、一般財団法人日本情報経済社会推進協会の「プライバシーマーク付与認定」を受けており、医師・放射線技師・臨床検査技師の多くが、関係学会の認定などを受領しています。また、協会けんぽ生活習慣予防健診委託実施機関や労災保険二次健診等給付指定機関でもあります。

受検いただいた皆様からも、明るく、ゆったり受検でき良かったとの声もいただいています。今後も施設設備面のみではなく、職員の接遇にも気を配り、より快適に健診をお受けいただけるように、さらに健診内容の精度管理にもより一層力を注いでいきたいと思っています。

現在の職員は 医師・看護師・保健師・栄養士・診療放射線技師・臨床検査技師・薬剤師・事務員・運転手などで203名になります。

当支部には大阪市中央区道修町4丁目の大阪総合健診センターのほか、寝屋川市に大阪病院、堺市内に堺高島屋内診療所があります。それぞれが連携をして健診を行っており、病院での治療の必要な方には、当大阪病院を始め関連病院へ紹介をすることにより、予防医学の健康診断から治療までと一貫した態勢で皆様のお役に立つよう心掛けています。



昭和15年7月 日本初のレントゲン自動車 第1号

日本産業衛生学会 第53回産業精神衛生研究会のお知らせ

1. テーマ：「職域メンタルヘルスの未来展望」～変わっていくもの、変えなければいけないもの～
2. 日 時：2012年3月3日(土) 9:30～17:00
3. 会 場：エル・おおさか（大阪府立労働会館）本館2階 エル・シアター
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14（地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」駅から西へ300m）
4. 会 長：廣部 一彦（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター所長）

<プログラム>

- 9:30 開会挨拶 会長 廣部 一彦（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター所長）
産業精神衛生研究会代表世話人挨拶
廣 尚典（産業医大・産業生態科学研究所精神保健学教授）
- 9:40～10:20 一般演題（発表7分、質疑3分）
- 10:20～12:00 パネルディスカッション「職域メンタルヘルスにおける産業看護職の役割」
座 長：夏目 誠（樟蔭女子大教授）、大脇多美代（大阪産業保健推進センター）
- 1) 事業所の産業看護職の立場から：玉木 登志枝（ダイハツ工業 保健師）
 - 2) 労働衛生機関の産業看護職の立場から：小倉 由佳梨（京都工場保健会 保健師）
 - 3) 産業医の立場から：上原 正道（ブラザー工業健康管理センター長）
- 12:15～13:15 ランチョンセミナー（共催：田辺三菱製薬株式会社）
「メンタルヘルス活動のための実践的心理療法～交流分析を中心に～」
座 長：圓藤 吟史（大阪市立大学医学部教授、日本産業衛生学会副理事長）
演 者：芦原 睦（中部労災病院心療内科部長）
- 13:30～14:30 特別講演
「メンタルヘルス不調者の職場復帰支援に関する国内外の話題」
座 長：車谷 典男（奈良県立医科大学教授、産業衛生学会近畿地方会会長）
演 者：川上 憲人（東京大学大学院医学研究科教授）
- 14:40～17:00 シンポジウム「メンタル不調者の復職支援を考える」
座 長：廣部 一彦（研究会会長）、鮫島 真理子（大阪産業保健推進センター）
- 1) 専属産業医の立場から産業医：土肥誠太郎（三井化学本社健康管理室長）
 - 2) 産業看護職の立場から：中田ゆかり（参天製薬(株)滋賀工場 保健師）
 - 3) リワーク支援の立場から：片桐 陽子（宇治おうばく病院 臨床心理士）
 - 4) 嘱託産業医の立場から：森口 次郎（京都工場保健会産業保健推進部部長）
- コメンテーター 弁護士：山田 長伸（山田長伸法律事務所所長）
精神科医：井上 幸紀（大阪市立大学医学部准教授）
- 17:15～19:00 懇親会（エルおおさか 10階）

5. 参加費：参加申込が多数の場合、事前申込を優先します 振込期限は1月31日(火曜日)
日本産業衛生学会員：3,000円 非学会員（医師）4,000円
非学会員（医師以外）3,500円 学生 2,000円
当日申込：上記参加者に一律 1,000円
懇親会：2,000円

振込先：みずほ銀行 天満橋支店 普通預金 口座番号1183129

口座名 第53回産業精神衛生研究会 会長 廣部 一彦

※ 所属、氏名等を明記し、事務局宛に参加申込のFAX(06-6944-1192)を送信のこと

6. 単位認定：日本医師会認定産業医生涯専門3単位申請中 日本産衛学会産業看護職継続教育4単位

主 催：日本産業衛生学会産業精神衛生研究会

共 催：大阪産業保健推進センター、大阪府医師会 協 賛：財日本予防医学協会・大塚製薬株式会社

会員の声



34年ぶりの振動障害防止対策指針の発出を振り返って 近畿大・総合社会学部 人体振動研究室

前田 節雄

昨年の4月から近畿大学総合社会学部に籍を移したが、平成12年4月1日から平成23年3月31日の10年間は、産業医学総合研究所、労働安全衛生総合研究所にて、労働安全衛生分野での職業性振動ばく露による手腕振動障害防止に関わる人体振動の研究に従事した。その中で最大の仕事は、平成21年7月10日に厚生労働省から発出された4つの振動障害防止対策指針の策定への貢献とこの指針の中でも取り入れられているISO規格策定やJIS規格策定にも貢献できたことであると考え。我が国の手腕振動障害の問題は、中央災害防止協会から発行されている「労働衛生のしおり」によると、なくなったかのように思われるが、平成12年に産業医学総合研究所に転職した頃には、新規に労働災害として認定される患者さんの数が700人を超えるような状況で、第10次労働災害防止計画にて、新規労災認定数の削減が取り入れられた。それを受けて第10次労働災害防止計画の間に何らかの振動障害防止対策指針の策定が待たれた。厚生労働省は委員会を立ち上げ検討に入った。

小生もこの委員会に委員として参画し、国際規格ISOの動向やヨーロッパの労働安全衛生の指針を探り、我が国の手腕振動障害防止に必要な方策を提案した。その内容が取り入れられ、平成21年7月10日に厚生労働省から4つの指針：

- ①振動障害総合対策の推進について（平成21年7月10日付け基発0710第4号）
- ②チェーンソー取扱い作業指針について（平成21年7月10日付け基発0710第1号）
- ③チェーンソー以外の振動工具の取扱い業務に係る振動障害予防対策指針について（平成21年7月10日付け基発0710第2号）
- ④振動工具の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」の測定、表示等について（平成21年7月10日付け基発0710第3号）

が発出された。発出当時はいろいろな批判などもあったが、振動工具メーカーは指針の中に示されている工具の振動値の宣言などは順調に進みつつある。今は、第11次労働災害防止計画の中で、指針の考え方の周知徹底の事業が進められている。今後、発出された指針の内容を理解いただき、労働現場での手腕振動障害防止の為に、指針の内容の周知徹底および指針の現場への取り入れを進めていきたいと考えています。



職場紹介

パナソニック健康保険組合
産業保健センター
産業衛生科学センター

杉岡 潔子

私の職場は「企業内労働衛生機関」として、各部門が、特殊健康診断、作業環境測定また技能講習などの各種教育を専門的に行っています。

私の所属する部門は労働保健部で、特殊健康診断を担当している部門です。医師8名・看護職27名で構成されています。

当センターが行う特殊健康診断の特徴を少し説明させていただきます。

- ①私たち専属スタッフが北は北海道から、南は沖縄まで出張して健診を行うことにより、グループ内の従業員に対して、同一サービスの健診を提供することが出来ます。
- ②有害物質の曝露指標となる生物学的モニタリングを事前検査することにより、健診当日には、すべての検査結果がそろっています。そのため、健診当日には検査結果に応じた結果説明を受診者各々に

行うことができます。

- ③健診項目については法的なものだけではなく、パナソニック基準という独自の基準を取り決め、有害物について、より厳しく管理しています。
- ④健診はすべてシステム化を図り、個人の情報を一元管理できるようにしています。

このような特徴を持ちつつ、メンバーは数多くの出張を日々こなしています。

産業看護職は20代から40代と年齢層が広いです。これくらい年齢層が広いと、なかなかコミュニケーションを図るのが難しいですが、一つのコミュニケーションの方法としてお昼休みや午後の休憩時間に、みんなでお茶をしながらさまざまな情報を共有しています。また、余暇の使い方としては、ジョギングやヨガ、フラダンス、山登り、サイクリング、陶芸など趣味を大切にしたり、ペットを飼ってそれをブログに綴り、人気ブロガーになっている人もありユニークな集団だと思います。これからも自分自身の身体と気持ちの健康を保ちながら、「従業員の健康と安全を守る」の理念のもと、日本全国のグループ企業の従業員の方々に笑顔で健診を提供して行きたいと思っています。

会員の声



健康管理支援室
パナソニック健康保険組合
健康管理センター
健康管理支援室

橋口 克頼

私事ですが、2011年9月に人事異動で健康管理支援室（以下、支援室）という部署の所属になりました。パナソニック健康保険組合（以下、健保）は2011年4月に関係会社連合健保と合併し、健診項目やその事後措置、医療職の配置基準など産業保健上、様々な相違点のある事業所が増えました。同時期にこれらを調整するために支援室が開設されました。

全国各地にある47法人、794事業場、約2万人が対象で、ほとんどは小規模の分散事業場です。スタッフは、医師が上司である伊藤正人室長と私の2名、看護職4名、事務職4名の合計10名（非常勤を含む）と、業務の範囲からすれば非常に少人数の組織です。支援室は健保の一組織であり、小職には産業医としての権限はないため、各法人に合った産業保健体制をこちらから提示し、それを構築していただくという立場です。現在、個人単位では電話もしくはメールでの健康相談や、パニック値など緊急性の高い方の事後措置の対応などをしています。法人単位では現状の産業保健体制の確認

とこちらから提供できるサービスの提示をするために足を運んでいるという状況です。産業保健サービスの高位平準化を目指しているのですが、各法人の経営状況や産業保健に対する考え方も様々であり、残念ながらこちらの思いだけでは簡単に進みません。

上司からいつも「信頼を得るには時間がかかるが、失うのは一瞬」といつも言われています。現状を打破するには、現場に足を運んで顔を見せる機会や提供できるサービスをどんどん増やし、かつ個々の対応・業務をこれまで以上に大切に行っていくしかないと思っています

産業医を始めた頃に、周囲から「産業医って何？」とよく訊かれていましたが、最近は新聞や雑誌などで産業医という言葉が使われる頻度が増え、周囲の理解も深まっています。長年従事していた事業場の産業医という視点からは少し変わりましたが、産業医としての経験が豊富でないと務まらない業務と自負しています。いつかは、専属産業医がいる大規模な事業場の産業保健サービスに負けないサービスを提供し、「支援室って何？」と訊かれられないような部署にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、支援室は設立して間もない部署です。産業衛生学会近畿地方会の皆様には様々な面でご相談やお問い合わせをする機会があるかと存知ますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



産業衛生技術部会近畿地方会に参加して

中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター
分析測定室 **山室 堅治**

7月に東京の労働衛生調査分析センターから大阪労働衛生総合センターに転勤してまいりました山室と申します。初めての転勤と一人暮らしで戸惑うことも多いのですが、元気な大阪の人たちに負けないようにがんばって行きたいと思いますので、よろしく願いいたします。

平成23年10月22日に開催された「労働衛生分野における国際協力と期待及び皮膚の老化とケア」がテーマの産業衛生技術部会近畿地方会の講演会に参加させていただきました。講演会では、初めに独立行政法人国際協力機構（JICA）の寺門雅代先生からJICAが行なっている労働衛生分野の国際協力についてお話いただきました。労働衛生分野の国際協力は、開発途上国における脅威からの回避という人間安全という分野に位置付けられ、資金協力の他に専門家の派遣や現地の専門家を日本に来ていただいて研修を受けていた

いていることなどの解説をいただきました。次に産業医科大学の熊谷信二先生から日本の労働衛生管理についてお話をいただきました。日本が作業環境測定を中心として進めてきた作業環境管理手法について解説をいただきましたが、参加者の多くがJICAの労働安全衛生政策向上プログラムにより研修生として来日されている方々であり、作業環境測定と個人ばく露濃度測定との違いなど興味深く聴講されていました。次にヨルダン、マレーシア、フィリピンから研修生として来日されている3名の先生方から、自国の労働衛生の現状とその課題についてお話をいただきました。それぞれの国の労働衛生管理行政の中心に解説をいただきましたが、各国とも中小企業の労働衛生管理に課題が多いようで、中小企業対策に力を入れているようでした。最後に特別講演として、元資生堂研究員の坂本哲夫先生から皮膚の老化とケアについてお話をいただきました。皮膚の構造といった基本的なお話から皮膚の老化の原因やアンチエイジングについて解説いただきました。皮膚の老化防止についての質疑応答が活発にされ、特に女性の興味を引いていたように思います。今回の講演会は、海外の労働衛生の現状を生々の声で聞くことができ、大変興味深いものでした。

議 事 録

平成23年度第三回幹事会議事録

日時：2011年11月5日（土） 12：10～12：45

場所：奈良県文化会館2階 集会室A・B

出席：車谷・清田・圓藤・伊木・伊藤・植本・大脇
河合・久保・小泉・鮫島・鈴木・埜田・竹村
土手・夏目・中西・西尾・廣田・廣部・宮下
森岡（順不同・敬称略）

欠席：岡田・木村・宮上・山田・藤岡
（順不同・敬称略）

1.挨拶（第51回近畿産業衛生学会夏目誠会長）

2.議事

- 1) 第52回近畿産業衛生学会（2012年・和歌山）について（森岡郁晴次回会長）
「災害時の危機管理」をテーマとし、11月17日（土）、和歌山医大保健看護学部にて10：00～16：30で開催する。ランチオンセミナーも計画している。
- 2) 第53回近畿産業衛生学会について
京都大学中山健夫会長の伝言として、京都大学内芝蘭会館（稲盛ホール・山内ホール）にて、2013年11月2日（土）開催予定との報告があった。
- 3) 選挙制度検討委員会からの報告（土手委員長）
印刷会社の選定、選挙方法、監査役配置等について検討中である。
- 4) 規程類検討委員会からの報告（次回報告）
- 5) 地方会ニュース発行状況とHP更新状況について（中西幹事）
1月初旬の発行に向けて順調に作業中である。
- 6) 本部理事会の報告（圓藤理事）
公益社団法人化の進行状況、産業衛生学会の特長を踏まえた利益相反（COI）ガイドラインの作成、事前査読の制度化、理事定数の変更について報告あり。
- 7) 近畿地方会「産業看護職実態調査」の調査経過について（大脇担当幹事）
調査票の回収率53.6%、第52回近畿産業衛生学会で分析結果を発表する予定。
- 8) 「近畿産業衛生学会優秀演題賞」選考経過報告（夏目委員長）
3会場から各1題ずつ選考、さらに2題に絞る。

3.その他

- 1) 技術部会の開催報告（河合幹事）
- 2) 第53回産業精神衛生研究会の広報（廣部幹事）

- 3) 近畿産業衛生学会抄録集のHP掲載について（車谷会長）
PDF化した近畿産業衛生学会抄録集を全ページHPに掲載する。今回は発表者に確認のうえ掲載し、次回からは投稿要領に盛り込む。口演欠席には紙上発表という注釈をつける。

平成23年度第2回代議員会議事録

日時：2011年11月5日（土） 12：50～13：20

場所：奈良県文化会館2階 集会室A・B

1.開会

2.代議員会の成立

11月4日現在の代議員数116名

出席37名（委任状39名）

現在数の過半数の出席により代議員会は成立（地方会会則第13条）

3.第51回近畿産業衛生学会夏目誠会長の挨拶

4.議長選出

圓藤陽子会員（関西労災病院）を選出

5.議事

- 1) 第52回近畿産業衛生学会（2012年・和歌山）
- 2) 第53回近畿産業衛生学会
- 3) 選挙制度検討委員会からの報告
- 4) 地方会ニュース発行状況とHP更新状況
- 5) 本部理事会の報告
- 6) 近畿地方会「産業看護職実態調査」の調査経過
- 7) 「近畿産業衛生学会優秀演題賞」選考経過報告選考委員会（夏目学会長）から平田真以子氏（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）と藤井由希子氏（京都大学大学院環境衛生学分野）に決定との報告があった。
- 8) その他
 - (1) 第53回産業精神衛生研究会の広報
 - (2) 近畿産業衛生学会抄録集のHP掲載について（詳細は幹事会議事録参照）

6.議長解任

7.閉会

お 知 ら せ

平成24年度地方会総会のご案内

平成24年6月16日（土）に開催いたしますので、ご予定置きください。

会員の異動 (敬称略)

(新入会員)

- 出雲谷 剛 笹尾医院
- 石川 健治 NTT西日本京都病院 健診センター
- 宇都宮理恵 JR西日本健康増進センター
- 大谷 成人 兵庫医科大学公衆衛生学
- 門脇 誠三 市立小野市民病院
- 北村 桂子 三菱電機(株)冷熱システム製作所
- 小濱 章夫 幸循会OB Pクリニック
- 寺崎 文生 大阪医科大学
- 中村 嘉孝 医)オーク会 オーク住吉産婦人科
- 星出 里絵 (株)ベストライフ・プロモーション
- 横山 享子 シャープ健保組合 本社健康管理室
- 関根 友実 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科
- 本岡 寛子 関西福祉科学大学
- Mohiuddin 大阪医科大学衛生学教室
- 盛岡由紀子 (財)日本予防医学協会 西日本統括センター
- 山本 雅清 三菱電機(株)姫路製作所 健康センター
- 山形 歩美 国立循環器病研究センター
- 杉山 大典 神戸大学大学院医学研究科
- 老田恵美子 臨床検査免疫学分野
- 本田 則子 大阪市立大学保健管理センター
- 河野 恵 パナソニック(株)
- 味木和喜子 OBPパナソニックタワー健康管理室
- (再入会員) 社)関西労働衛生技術センター
- 神里 英吾 兵庫県 職員健康管理センター
- 姫路聖マリア病院

第11回近畿臨床産業医学フォーラム

- 日時：平成24年2月8日(水) 18:00～
 場所：ホテルグランヴィア京都 5階 「古今の間」
 京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR京都駅中央口
 TEL (075) 344-8888 (代表)
- 参加費：1,000円
 申込み：FAXにて事前申込み(近畿地方会HP等でご案内いたします。)
- ープログラムー
- 17:45～ 製品紹介
 小腸コレステロールトランスポーター阻害剤ゼチーア錠 MSD(株)
- 18:00～19:00 一般講演
 座長：京都工場保健会診療所 所長 武田和夫 先生
 「メンタルヘルス不調について」(仮題)
 演者：杉本医院理事長 杉本二郎 先生
 「歯周病について」(仮題)
 演者：京都府立医科大学付属病院 歯科 副部長 山本俊郎 先生
- 19:00～19:50 特別講演
 座長：京都工場保健会診療所 所長 武田和夫 先生
 「脂質異常症について」(仮題)
 演者：みずほFG大阪健康開発センター所長 廣部一彦 先生
- *尚、講演会終了後、懇親会を予定しております
 共催：日本産業衛生学会近畿地方会
 近畿臨床産業医学フォーラム
 MSD株式会社

求人広告

JR西日本健康増進センターでは、現在、産業界の募集を行っております。皆様の応募をお待ちしています!!

募集職種	産業界(正社員) 保健師(契約社員)
勤務地	西日本旅客鉄道株式会社 健康増進センター 〒530-0011 大阪市北区大深町2-190 ※近畿圏(京阪神、和歌山、福知山)の事業場への出張有り
勤務時間	8:30～17:15(休憩60分)を基本とします
休日・休暇	年間休日118日、年次有給休暇最大20日 (入社時10日、翌年度から15日間、以降毎年1日ずつ増加)
採用時期	応相談
待遇等	委細面談の上

【お問い合わせ先】
 西日本旅客鉄道株式会社 健康増進センター 企画 神出(しんで)
 TEL…06-6372-6108
 Email…hideki-jinde@westjr.co.jp



sparkling soy water
大豆サイダー SOYSH
 ソイッシュ
 大豆をまるごと使用(うす皮は除く)
 大豆イソフラボン
 食物繊維

大豆イソフラボン…20mg
 食物繊維 3.5g
 大豆固形分…7%以上

大豆アレルギーの方は飲用をお控えください。

編集後記

2012年明けましておめでとうございます。2011年は、3.11東日本大震災の津波、福島第一原発事故、と甚大な被害に始まり、「電力使用制限令」の発動による節電、戦後最高値を更新した円相場、テレビの地デジ移行、などでしこジャパンが女子サッカーのワールドカップ世界一など、過去に無い出来事がたくさん起こった一年でした。また、「想定外」という言葉は、まるで2011年を象徴するキーワードのようになってしまいました。産業保健における「想定外」にどう対応していくのか、危機管理について考えさせられた1年でもありました。今年では会員の皆様、そして人類にとって幸せな一年になることを祈念しています。(鈴木純子)

- 編集委員 (五十音順)
 大脇 多美代 (編集責任)・河合 俊夫・木村 隆
 鈴木 純子・竹村 芳・中西 一郎 (広報事務局)
 藤岡 滋典・宮下 和久